七日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵送　金六十五錢
□一部　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人　森合英

まけ柱ほめて造れる殿のごといませ母刀自おめかはりせず（防人の歌）

閼伽井嵐

先驅者の悲哀

高木稻水

五日の晩に平商業報國隊の人達と磐城文化協會委員との座談會が行はれた事は本紙昨報の如くであるがそれに就いて一言所感を述べて見たい。

第一に座談會の目的が出席する迄判然としなかつた。あれは當夜の旨趣目的、座談會でとりあげようとする問題を豫告して各自の腹案態度をきめて出席するやうにすべきであつたさうでないと座談の進行も圓滑に行かないし、その場での思ひつきで語り合ふ結果話に根本的のものが出ない。

第二に話す人物を極少數に、たとへば二人か三人位に限定してその人を中心として他の人達はそれに對して自分の意見を述べるといふやうでなければ話の中心が逸してしまつて茶呑み話しになつてしまふ。

座談會全體から受けた感じは、好むと好まざるとに拘はらず時代が大きな波を打つて動いてゐる、そしてそれが刻一刻と前進してゐるといふことであつた。各人の態度は何れも眞劍であり、眞に息づまるやうな雰圍氣を釀し出してゐた。利潤統制や配給機構の問題にしても或は店員や女中の問題でも皆我々の目前に迫つた切實な問題であるもつと根本的にいへば商業そのものゝ概念が改まりつゝあるのだ。商人の態度がどうの消費者の利便がどうのといふのは枝葉末節であつて生産者と消費者の間に立つ商人がいかなる形で存在するやうに世の中が移りつゝあるかゞ重要な問題である。

私はむづかしい經濟問題は知らぬ。しかし世の中は變つて行く、政治でも教育でも經濟でも戰後再び戰前のやうな自由主義的な狀態に還元するとは絕對に考へられない。若い人達はこの點をはつきり認識して敢然として立つ心構へが必要である、そしてそこに先驅者としての悲哀を味はねばならぬ、

踏破六百里

……櫛田彦之進氏による……

岩崎敏夫

（五）

第二師團も近くなり吉岡の町につくや、各乘馬隊の代表の出迎へを受ける。師團の衛門は今度は堂々とくぐつた。この計畫の當初數回こゝをくぐつたが、最初などは殆んど門前拂ひ同様の待遇を受けたのに、今日は多くの出迎へを受け二階で休憩、師團長以下にお褒めの言葉をいたゞき、聯隊區の後援によつて高等旅館に落ついた。聯隊副官に伴はれた紋付に羽織袴の宿の主人が來て言ふに、聯隊區のお方から、佐官の待遇で充分もてなしをして上げよとのことだといふ。一兵卒にしてこの待遇、私は心の中に熱いものゝこみ上げる氣がして、いよ〳〵負うた荷の重いことを感じた次第であつた。

此處でも休養をとらずに出發。郷里なる福島縣に一歩ふみ入れたのは十月十四日のことであつたが、吉岡はこの日跛行しはじめた。本縣に入つてこの故障かと心配した。縣境には人數多出迎へて居り村々ではその筋の達しがあつたとて、私の爲に國旗をかゝげ、福島市では花火をあげてくれる。伊藤知事、中井內務部長以下の出迎へを受け市では宛ら凱旋將軍の如き歡待を受けた。行程百三十餘里であつたが、人々は何とか福島まで無事着いてくれゝばいゝと考へてゐたといふことであつた。こゝは豫定の第一休養地なので、始めてゆつくり休養二泊する。

十月十八日午前十時里川橋で本縣に分れ栃木縣に入つたが、福島縣種馬所の六十餘頭、白川乘馬倶樂部員の見送りを受けた。この夜は西那須野の大山公の農場に一泊、家扶某氏の御厚意で、畏くも大正天皇陛下御宿泊の御部屋を目のあたり拜し終夜天井を見つめたまゝ涙流れてねむれなかつた。翌未明に起床、程近くの乃木神社に詣でて騎乘安全を祈願し大山大將の塋域に詣でこの日宇都宮に向ふ。

藝能のはなし

（四）

高木稻水

昔奈良に舞の師匠で和博士晴遠といふ方があつた。代々還城樂といふ舞をやることを以て天子樣に仕へてをつた。然るにこの舞の秘曲をまだ誰にも傳授しない中にぽつくりと病氣で死んでしまつた。丁度土用のことで當時の迷信で土用に土を動かすことを忌む習慣があつたので死体の埋葬をしないでその棺をハヽソの森といふ森の中に置いた。所が三日ばかり經つた或日一人の椎夫がこの森を通過するとその邊で人のうなるやうな聲がきこえる驚いて逃げ歸つて晴遠の家に行つて、「どうも棺の中から人の唸る聲がするやうです」といふと、家人も吃驚してそれではといふので森に行つて見ると、成程死人がうなつてゐる早速棺を破つて中から死人を取出して家に來ていろ〳〵介抱して見ると死人は完全に生き返つた、生き返つた晴遠がいふには

私が死んで閻魔の廳に行つて、在世中の事を取調べられてゐた時一人の冥宮（地獄の役人）が「この者は日本の舞の師匠晴遠といふものであるが、まだ還城樂を傳授しない中にこゝへ召されました。ですから今回はもう一度娑婆に返してやつて還城樂の舞の傳授が終つてから改めてお召しになつたら好いでせう」といふと他の冥官どもが相談して「なるほどさうだ、來年の興福寺の常樂會の舞をやれ」といつて娑婆に返されたやうに思つたら生き返つてゐたのです。

親しい人達がこの話をきいて名人といふものは違つたものだ。あの世から舞の傳授のために生き返へらせられる事迄あるのだ偉いものだありがたいことだと語り合つた。その後晴遠はこの舞を傳授して後心殘りなく死んで行つたといふ。そも〳〵還城樂の面は晴遠の先祖に天から落ち下つたものだといはれてゐる、藝能がすぐれてゐることはかやうにありがたい事なのである（完）

俳句

水禍抄（一）

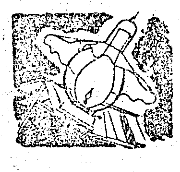
（野菊會）　遠藤無聲

夏の夜雨明くごとに降りつゞく
降りつゞく雷雨は地軸をゆるがしむ
ざざあつと篠つく雨や夏の夜
雨足の猛く土打ち明け急ぐ
風さへもまじへて雷雨なぐれおつ
夏の闇雨のみ土を跳ね馳くる
ごうごうと夏川流れすさまじく
夏水の溢れて人等わめき往く
警鐘亂打出水危險を報知せる

異人劍法【49】

（禁無斷轉載上演上映）

車谷弘
下山望東畫



湯けむり（七）

小梅に上りこまれては堪らない巳之助はあわて乍らも白ばくれて、

『と、とんでもない』

と手をふつて、

『見るかげもないこんなあばら家、お恥しうございますが、貴女方をお通しするやうな、そんな座敷は、……』

『いゝえ、もう、そんな事はおかまひなく……』

『でも、いえ、それでもう、此方へ參りましてからは、貴女方のお氣に召すやうな、そんな高價の水晶類、まるで持合せてはをりませんし……』

『何を云つてんのさ』

馬鹿々々しさに、ふいに小梅はぢれつたくなつて、

『いゝえ巳之さん、妾ア何も水晶を買ひに來たんぢやアありませんよ』

『えつ、そりやアとんだ……いえまア、ぢやアともかくも汚らしうござんすが、此方へお上りなすつて……』

と間誤ついて、しどろもどろの巳之助を、あざけるやうに尻目にかけ、

『ぢやア御免下さいよ

と小梅は座敷へ上り込んだ。

さもいま〳〵しげに立上つて巳之助はキツと唇をかみしめてゐた始めて二人きりになると、小梅は涼しさうな顏をして、悠々と團扇を使ひ乍ら、なめかしく膝を崩した。

腕をくんで、苦りきつてゐる巳之助に、

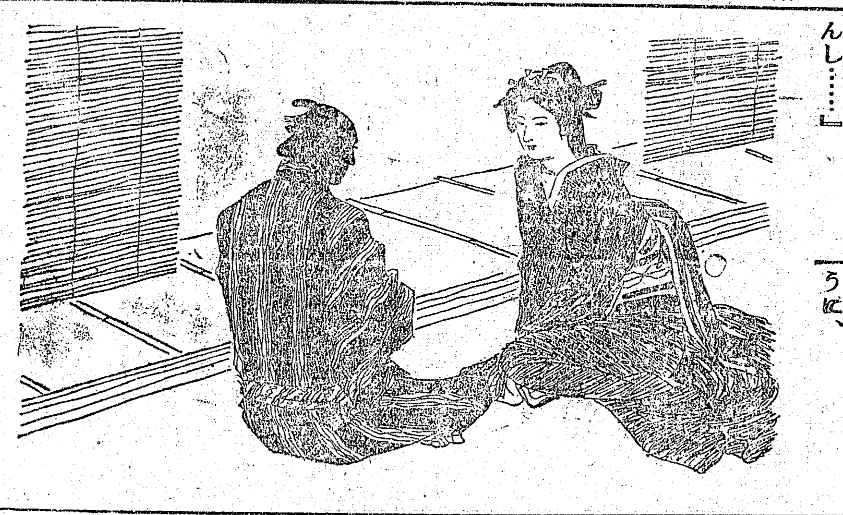
『いきなりびつくりするぢやアないか』

と微笑ひかけて、

『いゝ加減におどかすもんだよ』

『そりやアこつちで云ふ事だ』

と低く、あたりに氣を配つて押しつけるやうに、



『小梅』

と呼んだ。

『え』

巳之助は改まつて、兩手を膝について、

『すまねえ、今日は默つて歸つてくれ。きつとそのうち　こつちから出て行くから……』

『そりやアねえ、いくらこの妾だつて、取つて喰はうたア云やアしないが、その迷惑さうな顏をみちやア、氣の毒にもなつてくるし、この上とんだ猿芝居もおつきあひも眞平だ。だがねえ巳之助さんさつき取次に出た綺麗なひと、昨夜も湯小屋に迎へに來たが、ありやアいつたい、お前さんの何なのさ……』

『しつ、そ、そんな大きな聲を出して、聞えるぢやアねえか』

『おや、聞えちやアいけないのかい』

『あたりめえよ、あの方は町人ぢやアねえんだ。こちとらたア御身分が違ふんだ』

『何とかうまく云つてらア、お前さんも見かけによらない、とんだ猫かぶりなんだねえ。あんないゝひとがゐるんだもの、妾なんかのふられるのも無理はないさ』

『バ、バカな事を……』

『何だか妾ア歸るのが厭になつた』

『冗談云つちやアいけねえ、頼むから歸つてくれ』

『ぢやア明日の晩はきつと來ておくれだらうねえ』

『行くよ、行くとも』

『來なけりやア、また此方から押掛てくるからいゝや』

御會食に
御商談に
割烹
幸樂
小名濱町幸樂通り
電話201番

本社電話變更
電612番
磐城毎日新聞社

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品が自慢
平・大町町電323番

ミクローゼ
發育する際に死滅し易い酵母と異り、ミクローゼの主成分である日本固有のビルツは、生存力が極めて強く、服用後、胃腸內でどん〳〵増殖し、強力な消化酵素を産生する特徴を有して居ります。――故に、効果は持續的、且つ強力であります。何よりの證據は、食慾が増し、快い便通が得られることです。
郵券十錢で、五日分六十錠の試服錠を急送す
星チエーンストア支部
全國各地藥店に有り
東京・五反田　星製藥株式會社　M9

ゲーム係見習ノ方數名募集
務先　東京（[illegible]務めです）
高給デ優遇致シマス
【委細面談】…御希望の方は左記へ…
市內仲田町井坂病院前
平撞球場內

お醤油は
味噌、醤油
たひら正宗
鰹節、食料品
福島縣平市
山崎合名會社
電話本店二七〇番

食事　喫茶　酒場
サロン
營業時間
○開店…午前十時より
○御飯は夜九時までに御願致します
○閉店…午後十一時限り
平市銀座街　電話五九二番

大衆向きの小口保險
三百圓より大口契約も
好條件で外交員募る
板谷生命保險株式會社
小名濱代理店　比佐政種

大の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム、ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
日本水産特約
ヒノマル食品店
平市三丁目
電話三八番

外科一般、內臓外科
性病科、肛門病科
▽入院應需△
木村外科醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角）
電話三〇九番

平病院（元共濟病院跡）
內科、小兒科、レントゲン科、物理的療法科　院長　醫學博士　鈴木定蔵
皮膚泌尿器科、內臓一般外科　副院長　高橋俊幸
藥劑師部長　吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます
急患は此の限りにあらず

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板、ベニヤ板、木羽、建具、建築材料、便利瓦
織田材木商店
製材工場　平市磐越東線赤井驛前（大作場）
電四九〇番
電二三五

皮膚科
泌尿器科
性病科
江尻醫院
江尻伊三郎
平市田町　電六九一

ガソリン
キカイ油
輕油
石油
測量器
製圖器
マス
ハカリ
モノサシ
平石油共同配給所
關內正一商店
平市・電話16

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂　村山書店
平市驛前中央通り

內科　小兒科　外科　性病科
看護婦及び女中募集
院長全快診療に從事
高久病院
院長　高久忠
副院長　赤羽清
藥局長　佐竹菊雄
平市田町　電五一三

ハピマーチ
五十錠入　一、一〇
百錠入　二、〇〇
徳用罐　五、〇〇
特約店　平市五丁目　山野邊藥局

立食
天婦羅
始めました
おでん
もつ燒
一平
小名濱町

內科
外科
小兒科
花柳病科
會田醫院
小名濱町上橋町

砂利小賣　販賣
◎長橋町三十番地へ貯藏所を設けました。容れ物御持參下されば小量でも小賣り致します
◎五合以上の御注文は特に運搬も致します
神谷砂利店
平市白銀町　電話六六五番

外科（內臓、整形）
肛門科、性病科
レントゲン科
上田外科
院長　上田耕作
平市南町　電一二九

トンカツ
とんかつ専門の店
營業時間　午前十一時　午後十時半
一、三、七日ハ肉ナシ日ニ付キ休マセテ頂キマス
かの家
平市仲田町
電話四六五番

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
野內商會
平市南町
電話二一番

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川郷驛前
平屋賣店

鳩尾加壓器
みぞおちかあつき
一、鳩尾を落すことは動脈硬化が柔ぐ、胃腸は丈夫に、保健の祕訣です、千古を貫く
一、使つた其日からこれは効くぞと判るのが特徴です
製造發賣元…東京林健體本部
頒布所　平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番

殉職警防團員弔慰金

合計約二千餘圓贈らる

過般の風水害で殉職した平市中平窪平警防團第三分團副班長吉田秀一氏の警防團葬は十一日午後一時から第四國民校で執行するが、今七日午後二時から警防委員會を開き送葬料百圓家族扶助料五百圓贈つて故人の靈に酬ゆることに決定明八日の急施市會へ提案する、尚警防後援會も百圓の弔慰金決定この外大日本警防協會七百圓、縣警防協會六百五十圓、縣警防團平支部二百五十余圓平警防團等を合すると二千四百余圓に達するものと見られてゐる

眞夜中の刧火

日進堂金田製材工場丸燒け

損害十万圓超えるか

今七日午前零時廿分頃平市才槌小路市役所横通り日進堂材木店金田久馬方製材工場から發火乾燥した箱材に燃え移つた爲火足は非常に早く火元金田方で發見し警防團へ通じた時は既に工場內へ火の手が廻つて手の下しやうがなかつた、幸ひ殆んど風速無く上水道も前日通水してポンプにも異狀無かつた處から僥幸にも同工場二棟住宅、一棟燒失鎭火したが隣接して市役所及國民職業指導所、農產物檢査所を始め人家櫛比してゐるため一時は大騷ぎであつた

原因損害取調べ中なるも同工場は製函材を專門に扱ひ、鋸バンド一個でも二萬五千圓に上り、常磐線全通せぬ關係から製品の發送出來ず、函製品は山と積まれてゐたため損害十萬圓を超へるものと見られ、火災保險金は僅かに二萬圓程度の模樣である

原因は判らぬ

火元金田方で語る

火元の金田さんは『世間をお騷せして申譯御座いません』と發火當時の模樣を次の如く語る

昨夜は七時頃まで殘業してゐましたが其處は表に面した製箱材結束作業で火元とは相當離れて居ります、眼を覺して火事だと知つた時は既に相當火が廻つてゐましたから何處から火を發したのか判然としませんが、火の出たと思はれる製材工場は夕方の五時頃仕事を終つてゐるので殘火や煙草火とも思はれず原因はどうしても解りません、損害も大きいですが皆さんをお騷がせしたことは重々お詫び申します

火の手の早い因緣の場所

大火災五指を屈す

日進堂製材工場から色川製材工場へかけて附近一帶は火事の多いことで有名な因緣話しのある場所で、二十年程前品川練瓦工場の大火以來目星しい火事だけでも色川工場、丸ほん工場、日進堂工場二回と五指を屈し、練瓦工場火災の前と其の後の小さい火事を加へると十回にも上ると云はれ附近住民は火災に對し恟々としてゐる

去る昭和十二年十一月に佐藤製材工場と日進堂工場を燒失したときは兩工場の中央部邊りが火元と斷定されながら原因遂に不明のまゝ葬り去られて居り佐藤工場はその火災以來赤井方面へ移轉、日進堂も隣家馬目酒店の要望を容れて石垣の防火壁を築いた程で今度の火災ではこの防火壁が大きい役目を果し隣家への延燒を免れしめた

獨行船豊漁

北海の寶庫から快報

去る六月中旬ごろ遠くカムチヤツカに向けて出帆した郡內三十六隻の獨行船は引續き今月一ぱい操業を續ける筈だがこの程カムチヤツカ行き斡旋の產婆役をつとめた平國民職業指導所に漁は極めて豊漁の入電あつた

獨行船の漁場はオホーツク海並に北大平洋で六、七、八の三ケ月間主に輸出用のべ二鮭を追つて北海の荒波と敢闘、鹽引筋子などの土產を滿船して九月上旬ごろ續々母港に引上げる然し昨年は近年にない不漁であり加へて重油の統制から獨行船もグツト減り三十六隻になつたゝめ今年の漁が各方面から注目されてゐたときだけに早くも豊漁便りに濱は湧き返つてゐる

懇談會

八日海洋學校で

八日午前九時小名濱海洋青年學校に於て農林省技師外一名の出荷統制組合法に關する懇談打合會があり、小名濱江名關係者の合同するが縣當局も業者も未だに組合の眞精神に觸れてゐない折柄出荷統制組合法の質疑應答は大きな期待を掛けられてゐる。

夏秋蠶掃立

管內全部終了　一割二分減ず

平蠶業取締所管內の夏秋蠶掃立は去る一日を最盛期にこの程全部終了したが掃立總量五萬三千グラム（一萬四千百三十余貫）で水害のため最初の豫想より約一割二分の減收であるが養蠶家の共同飼育が成績がよつたゝめか目下の處蠶況は極めて良好である

尙ほ山間部方面の早いものは四眠、平坦地方は二齡である

鎌田橋復舊絶望

神谷坂切下運動起す

過般の風水害で流失した鎌田橋の再架橋問題に關し神谷村では四日緊急村會を招集協議の結果

古材料を除いても總工費二萬二千五百圓の內神谷村側は半額の一萬一千二百五十圓負擔することになり復舊に依つて恩惠を受ける受益者は僅かに大字鎌田部落のみで負擔金の割合に益すること尠ないと云ふ理由の下に再架橋は否決され市村兩鎌田部落民の希望は全く絶たれるに至つた

從つて平神橋の交通量は增加することになり農產物運搬上現在の國道神谷坂は勾配急でリヤーカーなどの交通に尠なからず苦勞があり、現在の高さより二間切下げるため全村から三名宛の寄附人夫を提供することを申合せ佐藤村長外代表者三名擧げ內務省へ陳情することになつた

橋に替る新道路計画

別項、鎌田橋の復舊架設は全く絶望となつた爲平市鎌田及神谷村鎌田の兩部落民は過般來鎌田橋に變るべき對策を協議してゐたが平神橋から夏井川の東側に沿ふて向鎌田へ通ずる道路を擴築するため鎌田山を切崩して六尺道路を開鑿する計畫など話題に上つてゐる

小名濱三業者の

漁類出荷統制

農林省技師が直接慫慂

時局の生んだ生鮮魚介出荷統制機構に對しては各濱共從來の行掛り上、妥當なる成案に惱み拔いたが、小名濱町では町、漁組、代行部と三者連繫の下に運行を圖つてきただけに今次の出荷統制機構は三者協調の上に進まなければならぬ因果となつて居り曩に代行部福尾支配人が、これが意見書を公にし水野漁組、組合長との第一回懇談も遂げたが、何等の基本的妥協案に到達せず福尾氏の意見書の內容說明を受けたのみでその後更に進展の模樣もなく明八日農林省技師が來小し出荷統制問題に關し懇談ある爲めこれにより出荷統制機構の深き認識を得て改めて三者協調の礎を築くものとして一般の關心を集めてゐる

文化講座

文協の計画進む

地方文化運動の一つとして「文化講座」をやつて見ようといふ案が出て、磐城文化協會では學藝部が主となり今月下旬に愈々これが實現をはかる事になつた、そのプランは大体次のやうなものとなつてをる

渡邊直人氏に依る自然文化への認識、裁判所檢事或は判事に依る法律常識等が數へられ、その他敎養講座として俳句、鄕土文化等の講座をも設ける事になつてゐる

日取は特別講師島木健作氏に交渉の上その來平の日を中心として決定を見る筈であるが講師としては入山所長大越新、小名濱測候所長猪狩重光氏、水產講習所長

繊維工業

宣傳映画會

平國民職業指導所では財團法人職業協會福島支部と共同主催で來る二十八日午後七時から公會堂に繊維生產工業への識認を深めるべく映畫會を開催する、上映する映畫次の通り

△故鄕に立つ（五卷）△大將の母（四卷）△鍊えよ產業女生軍（二卷）△文化映畫その他ニュース

地下採掘問題

專門家の意見聽く

平市の地下試堀調査委員會は今七日午前十一時から市會議事堂に開き東京市本鄕區湯島町倉田輝光氏から申請された市地域の地下試堀案を審議の結果專門家の意見を聽取することになつた

今回の諸問案は前回杉田周吉氏から申請されて不許可となつた以外の殘存地域、即ち鯨岡の一部中鹽梅ケ町、紅葉町、九品寺前等比較的人家疎散な田畑が多く試堀方法の可否が問はれてゐる關係から委員會は近くこの方面の地質と石炭採掘に經驗ある湯本町木村德太郎氏の意見を聽し、必要に應じ各方面の實地調査も行ない愼重を期することになつた

大敷網權利金

組合側で練り直すか？

小名濱、江名兩漁業組合の好餌たる大敷網地元漁業權問題は兩者が練りに練つた明年度よりの貸付け條件たる五ケ年二十五萬圓、內十五萬圓前納案は、希望者の不信を講い更に應ずるものがなかつたが一面、如斯高率な新契約は九、一八の停止令に觸れるものとして先般來農林省よりこれが注意を受けたと云はれ折角の成案も徒勞に期し改めて代案の作製に取掛る模樣である

兩角中將

講演會盛況

大浦村銃後奉公會主催四倉、大野、草野各町村銃後奉公會主催にて今七日午後一時より同村國民學校講堂で陸軍中將兩角三郎閣下並に公爵一條實孝閣下を迎へて世界狀勢に關する大講演會を開催したが定刻一時までには約二千餘名の聽衆者あり講堂滿員の盛況裡に午後三時一條閣下御發聲で萬歲を三唱して散會した

野崎貞行氏

釋然たらず

漁業界から注目

小名濱漁業組合、東日本漁業株式會社前者は副組合長後者は專務取締役の野崎貞行氏は二つの辭書を水野政次郞氏に提出關係者を驚かせたが、組合側では役員會を開き慰留を勸告し、辭表を面前で破棄し撤回した表面の象となつてゐるが、その後野崎氏は組合へ顏出しもせず低氣壓は依然低迷の狀態にあり態度を注目されてゐる

藏書家の書齋拜見

足の向くまゝ（七）

頭の下る訓導連の讀書

愛書家群像

昔澤柳政太郎氏（文博）の書いた「校長及敎師論」の中に「一大体からいつて本を讀むことの好きな敎員は良敎師である」と述べてゐるが平市內の先生方の中で讀書家として知られてゐるのは誰々であらう。先づ東の方第三國民學校赤津校長、渡邊首席訓導の敎育方面、蛭田先生の動植物關係に指が屈せられる。西へ飛んで、第二國民學校の山內平先生、この先生は數學敎育方面のものを多く讀んでをる。次は第一國民學校の大和田首席訓導でこの先生は全集物等をかなり購入されてゐるといふ。平窪の第四國民學校の先生方は勉强家竝ひだといふ評判であるが、その中でも三瓶先生は敎育關係の本を多く讀んで居るといはれてゐる。更らに郡部の國民學校では、平に近い所から數へあげると神谷校の猪狩正男先生、この先生は敎育關係の讀書をなさるさうである。內鄕校の大橋貞勝先生の修養關係の書籍蒐集も相當なものであり、上遠野校の齋藤先生の國漢の本も分量が多いと稱せられてゐる。錦校の鵜沼先生の地理の本は實に好く集めてあるといふ點で響いてゐる。國民學校の先生方にかうした讀書家や愛書家の多い事はわが石城の初等敎育發展のために喜ぶべき現象で、あの多忙にしてめぐまれぬ先生方が月々多額の圖書費を支拂つて書籍に親しむ態度には全く頭の下るものがある。中等學校では先般紹介した磐中の廣田先生、平商の若松先生は學校の圖書係でもあり自分のものとしても新刊書を讀み且つ購ふことが多いさうである。若松先生は專門の經濟方面の本が多いが一般のものも少くないといはれてゐる。同じ平商の廣田磯吉先生も社會經濟統計等の本の藏書家である。磐中の中鰈光秦先生の藏書もまた相當の量として知られてをるし、平商服部校長の讀書をいひはやす人も少くない。郡部では內鄕家政女學校長の佐川文雄先生の專門の植物の本があげられよう。

一般人の藏書家としては前好間小學校長吉田庄太郎氏をあげる人が多く、恐らくは日本精神關係の本の量では平隨一だらうと折紙をつけた人がある。子供がないので專ら本を愛好したのだといふ。河田鐵工所の若い息子さんも現代文學物を多く集めてをるといふし、庶民會庫の諸橋敬一郎氏の藏書も是非拜見の價値があるといふので吉田庄太郎氏と共に紹介豫定に入つてゐたのであるが吉田氏は留守、諸橋氏は水害の後でとう〳〵紹介できなかつた。佑賢學舍と共に市議松本德一氏、大森醫師、松村醫師、中野勇雄君の藏書等も逸する譯にはゆくまい。

變つた所では南町の馬目誠氏の劍道に關する文獻と同町磐中敎諭岡田朝五郎先生の柔道關係の本、內鄕村四家さんの山岳關係の本だらう。三猿文庫の出納助手大沼たけさんは九條武子さん關係のものを集めてをるといふ話であるが、それはかりでなく三猿文庫の仕事もこの人に負ふ所が多いやうである。

郡下では小名濱の助役高木保氏の藏書は特筆すべき價値があると聞かされた。

この他にも隱れたる藏書家や讀書家がもつともつとあるだらう。何分狹い調査範圍であるから洩れた方も多いであらうがそれはまた改めて書く事にし、紙上に掲載紹介した諸氏に妄評漫語の罪を深謝して大尾とする（完）

水道委員會

平市水道委員會は明八日午前十時から助役室に開き左の件協議する

△災害復舊工事に關する件その他の件

○○○○小名校音樂會○○○○

八日午後六時半より小名濱第一校講堂に兒童の納涼音樂會を開催する、

自製肥料

增產に補助

平專賣所では自製肥料の增產を圖るべく管內煙草耕作者に對し補助金を交付して草木灰蒐集容器の設備を奬勵する一方堆肥の增產も同時に圖るべく近く奬勵に乘出すことになつた

火災の爲減水せず

水道意を强める

復舊間もない平上水道は昨夜の火災で相當貯水池が減水したものの如く豫想されたが今朝の調査に依ると昨六日からの使用量は消防用水をあはせ四百七十六立方米で前日の時間給水に比較し殆んど同じでむしろ使用量が尠ない位であり全市民も大いに意を强ふすべしと

消火栓故障

一時斷水も解除

平上水道部では今七日午前九時半ごろ火災のため故障生じた才槌小路地內の消化栓修繕のため一時斷水したが直ちに復舊した

寄附二件

四倉町藝妓屋組合は町銃後奉公會より銃後國民の模範組として過般金一封を添へて表彰されたが此程金一封を町銃後奉公會に寄附した

◇

四倉町字仲町滿山淸四郎氏外十九名は舊組內解除に際し記念として金拾圓五十錢を町銃後奉公會に寄附した

廣野海岸に死体漂着

十六日目で發見

双葉郡久之濱町東町鈴木忠光君（一八）が去月二十三日朝流木を拾わんとして濁流に呑まれた同町中村龜治さん（三八）を救助せんとして濁流に飛び込み行方不明中であつたが今七日朝六時頃廣野町有筋海岸に腐爛した死体となつて漂着した

水の犠牲

幼兒河で溺死

三坂村大字中三坂字大根田農大谷松治三男寛ちやん（七）は五日午後一時五十分ごろ附近の川に轉落して溺死した

亡父供養

八十圓寄附

平市十五丁目久保田惠久さんは亡父供養のため次の如く合計八十圓寄附した

第一校、第二校、銃後奉公會、社會事業助成會各二十圓宛

農產物檢査

平農產物檢査所主催農產物檢査協議會は郡內各產業組合が參集今七日午前十時から團体事務所に開き八月から改正になつた新檢査法について協議した

磐中同窓會

縣立磐城中學校の同窓會の總會は十日午後一時から母校の講堂に開催することに決定、淸水同窓會長から通知を發した

世界館主

三百圓獻金

新築披露宴廢し

常設映畫館世界館主鈴木寅次郎氏は老後の余生を樂しむため搔槌小路へ立派な住宅を新築したが、時局柄盛大に行ふ豫定の披露宴を廢し次の如く三百圓獻金した

△二百圓、陸海軍國防獻金△百圓、平署活動資金へ

貨物自動車

一丸に合同成る

平市の十二トラック營業者は一丸となり平合同トラック運送有限會社を設立五日から營業を開始した。

重役、事務取締鈴木條三郎、取締野崎滿藏、阿部政右衛門、强口唯七郎、瀧口豐監査役鈴木與一、鈴木善太郎

文化運動

指導者講習

縣翼贊文化協會主催の文化運動指導者講習會は十六日から三日間福島市信夫山乃木庵に開催することに決定、磐城文協からは松村享氏受講することに內定、日曜日に當る十七日には委員四、五名參加する模樣である

講師は暉峻義等、上泉秀信、中島健藏、松田甚次郎の四氏決定、中央文化部長岸田國士氏外一名交涉中であり、漸く全國的に重要視されて來た銃後の文化運動を軌道に乘せる講習會として期待されてゐる

赤痢收容

平市南町四十八山下三次三女滿子さん（一二）は今七日赤痢と決定、隔離したがこれで同隔離病舍入院患者は六名である

商況

（七日）

【鮮魚】小賣値

メジ	五六、〇〇
イワシ	八、〇〇
アイナメ	五〇、〇〇
カジキマグロ	七〇、〇〇

今晩　北東の風晴れたり曇つたり

明日　北東の風一時曇り模樣

（八日）

滿潮　前四、〇〇　後五、三五

干潮　前一一、〇五　後一一、一五

興亞の晴れ着　國民服
髙
洋服は高島屋
平市三丁目通　電話三八六番

洋服裁縫
女子見習10名募集
通勤ヲ可トス
佐川洋服店　平三電418

御禮旁々御詫び
當工場の出火に依つて全市民をお騷せ申候段申譯無之深謝仕候
發火と同時に早速御馳つけ消火に御盡力被下候段有難く御禮申上候、拜趨の上御禮可申上の處御尊名洩れも有之候間乍略儀紙上を以てお詫び旁々御厚禮申上候　敬具
日進堂　金田久馬

謝近火御見舞
平市役所

謝近火御見舞
平市才槌小路四番地
常磐石炭株式會社平支店

御禮
謹啓　今曉近火の際は早速御馳付消火に御盡力被成下御蔭を以て鎭火致候段難有奉深謝候拜趨御禮可申上の處不取敢以紙上御厚禮申上候
敬具
昭和十六年八月七日
色川木材株式會社

御禮
今曉近火の際は早速御馳付御見舞被下候段難有奉深謝候拜趨御禮申上可の處略儀乍ら紙上を以て厚く御禮申上候　敬具
昭和十六年八月七日
平市才槌大路壹番地
堀江工業株式會社

御禮
今曉近火の際は早速御馳付御盡力被下候段難有奉深謝候拜趨御禮申上可の處略儀乍ら紙上を以て厚く御禮申上候　敬具
昭和十六年八月七日
馬目支店
吉田正夫
才槌小路

御禮
今曉近火の際は早速御馳付御盡力被下候段難有奉深謝候拜趨御禮申上可の處略儀乍ら紙上を以て厚く御禮申上候　敬具
昭和十六年八月七日
平市才槌小路十四
志賀材木店
志賀子之松

御禮
今曉近火の際は早速御馳付消火に御盡力被下御蔭を以て鎭火致し候段難有奉深謝候拜趨御禮申上可の處略儀乍ら紙上を以て厚く御禮申上候　敬具
昭和十六年八月十日
市役所前通り（大田町）田町第五班
東西中三隣組一同

御禮
今曉近火の際は早速御馳付御見舞被下候段難有奉深謝候拜趨御禮申上可の處略儀乍ら紙上を以て厚く御禮申上候　敬具
昭和十六年八月七日
二十三區十九部隣組
橫倉西藏　高木縫太郎　高崎晴明　高橋勝吉　有賀重森
佐藤福太郎　大木友榮　增田梅藏　岡田和牛　橫山忠二